

【 夏季休業中の研修会のご案内 】



会 合 名	日 時	会 場	内 容
入善町カウンセリング講座	7月28日(火) 14:00～	うるおい館	「不適応行動の理解と支援—症状や行動の奥にあるところ—」 講師：富山県こどもこころの相談室 代表 深澤 大地 先生
☆理科実験・観察訪問研修	7月30日(木) 9:30～	(午前)ひばり塾 (午後)飯野小	講師：県総合教育センター研究主事等
★授業力向上に関する講演会	8月3日(月) 14:00～	うるおい館	『『自立した学習者』を育てる授業への転換 ～授業と学級経営のアップデート～』 講師：授業と学び研究所所長 玉 置 崇 先生
◆ICT活用に関する研修会	8月4日(火) 9:30～	入善小学校	「校務、授業での生成 AI の活用」 講師：入善町学校情報教育研究会
◆朝日町・入善町合同 特別支援教育研修会	8月4日(火) 14:30～	飯野小学校	「知的障害特別支援学級における学習評価」 講師：東部教育事務所特別支援教育指導員 中村 明子 先生
★生徒指導に関する講演会	8月6日(木) 14:00～	うるおい館	日本大学文理学部総合文化研究室 教授 藤平 敦 先生
◆入善町地域めぐり研修会	8月19日(水) 8:10～	うるおい館 集合	講師：黒部川扇状地研究所研究所 石原 裕美 先生
5年理科現地学習指導者研修会	8月24日(月) 8:30～	うるおい館 集合	「流れる水のはたらき」黒部川流域 講師：上嶋 淳 先生

★印：魚津地区教育センター協業事業 ☆印：県総合教育センター協業事業 ◆印：入善町小・中学校長会協業事業

令和8年度 教育センター事業の紹介

教育センター職員

所 長 小 川 晋
(教育長)
所長代理 内 山 真 之
教育専門指導員 上 原 丈 和
教育専門指導員 上 島 芳 子
(特別支援教育担当)
教育指導員 中 林 智 亮
〃 田 中 亜 紀
特別支援教育 永 井 好 実
コーディネーター
助 手 窪 野 美 雪

のぞみ【教育支援センター】

《開設時間》
月曜日～金曜日
午前9時～12時(それ以外は要相談)
☆ 児童生徒に寄り添い、主体性を
尊重しながら、様々な学習や体験
活動を行っています。そして自発
性や社会性、学習への興味・関心・
意欲を育み、自立への援助を行いま
す。
見学を希望する場合は、事前に
電話等でご相談ください。

教 育 相 談

困りごとがありましたら、
来所あるいは、電話等で相談
をお受けします。気軽にお問
い合わせください。
＊月曜日～金曜日
＊午前9時～午後5時

教育センター
TEL：72-0009
FAX：74-2792

◆◆ 編 集 後 記 ◆◆

iPhoneの小さな画面でナビゲーションしていると、周辺の道路はよくわかるのですが、どの方向に目的地があるのかわからず、車を走らせていることがあります。経由地を設定しないと、まさかと思うようなICで降りることになってしまい、慌ててしまうこともあります。

令和8年度「入善町学力向上講演会」は、山梨大学准教授 三井 一希先生のご講演でした。ICT教育では注目の講師に、入善町でご登壇いただきました。

アンケートには、「新時代に合わせた人材を育てるために、こちらも今までのやり方にこだわるのではなく、研究と修養に努め、アップデートをしていく必要性をおおいに感じた。」といった感想が多くありました。「自立した学習者」の育成がなぜ必要なのか、三井先生から学んだ「日本の教育の進む方向」を迷わずに、「不可逆的」に「エディット」しながら、「ガードレールの幅を広げて」いきたいものです。8月3日の「授業力向上に関する講演会(玉置 崇 先生)」も目的的地は同じです。「授業と学級経営」に経由地を変えて、とても刺激的な講演会になることでしょう。



教育センターだより

第196号

令和8年7月15日
入善町教育センター

「バタフライエフェクト」を期待して

入善町教育長 小 川 晋

私は、入善町の子供たちには「ふるさと入善に誇りをもち、生涯にわたって夢を追い続けてほしい」と考えています。

「私は自分のふるさとが好きだ。ふるさとは私の誇りだ。何の取り柄もない二十歳の女の私が自慢できることといえば、あんなに美しいふるさとで生まれ育ったということだけなのだ。」

芥川賞作家宮本輝さんの小説「田園発 港行き自転車」で、入善町出身の登場人物が東京で語った言葉です。宮本さんは取材で訪れた入善町で、黄金色の稲穂が揺れる広大な田園に立ったとき、「ここだ。自分はここに立ちたかったのだと思いました。その瞬間、突然僕の中で物語が動き出したんです。」と語っています。

私たちは、私たちが思っている以上に恵まれた自然環境で生きているのかもしれません。

入善町では、黒東合口用水、黒部川扇状地(世界で代表的な臨海扇状地)、海洋深層水と湧水、中学生議会、分県の父米澤紋三郎さんなどを題材として「ふるさと学習」に取り組んでいます。これらの学習を通して、小説の登場人物のように「ふるさとは誇りだ」と言える人間に成長してもらいたいと思います。

小学校の「ふるさと学習」は、努力する力と工夫する力があれば大きな可能性があることも知ってもらいたいと設定しています。

「黒東合口用水の学習」では、黒部川の豊かで清らかな水は、黒東合口用水を通じて町内全域に行き渡り、町の基幹産業である農業を支えていること。「入善ジャンボ西瓜の学習」では、西瓜は扇状地の水はけのよい砂地に適した作物であること。逆に米は水持ちのよい土地に適した作物です。そのため、山の赤土を黒東合口用水を利用して流水客土を行い、稲作に適した土地にしたことなど、先人達は自然と闘いながら工夫し続けて、農業の課題を克服してきたことを学びます。

「海洋深層水の学習」では、富山県の海洋深層水の特徴の1つである水温2℃前後という低温安定性を活かし、パックご飯を製造する会社を誘致。炊飯工程において大量の熱が発生し、工場内が非常に熱くなることから、冷たい海洋深層水を冷却媒体として熱交換することで工場内を冷却。さらに熱交換により12℃～13℃に温まった海洋深層水で、牡蠣の蓄養・浄化を行ったり、サーモンの陸上養殖事業が可能となったりするなど、さまざまな産業の創出が期待されることを学習します。

これらはいずれも、入善町が自然と闘いながら産業につなげてきた、まさに、プロジェクトXのような物語です。入善町の子供たちにはこの学習を通して、入善町のよさを理解することはもとより、大きな起業チャンスが自分たちの周りにあることも実感してほしいと考えています。

「ふるさと学習」が、将来の入善町を担う子供たちにとって「バタフライエフェクト」につながることを期待しています。

<バタフライエフェクト>

「ブラジルで1匹の蝶が羽ばたくと、テキサスで竜巻が起こるかもしれない」
気象学者エドワード・ローレンツ(1917～2008)が唱えた有名な気象学でのたとえですが、今では小さな変化が将来大きな結果につながる可能性がある比喩にも使われています。